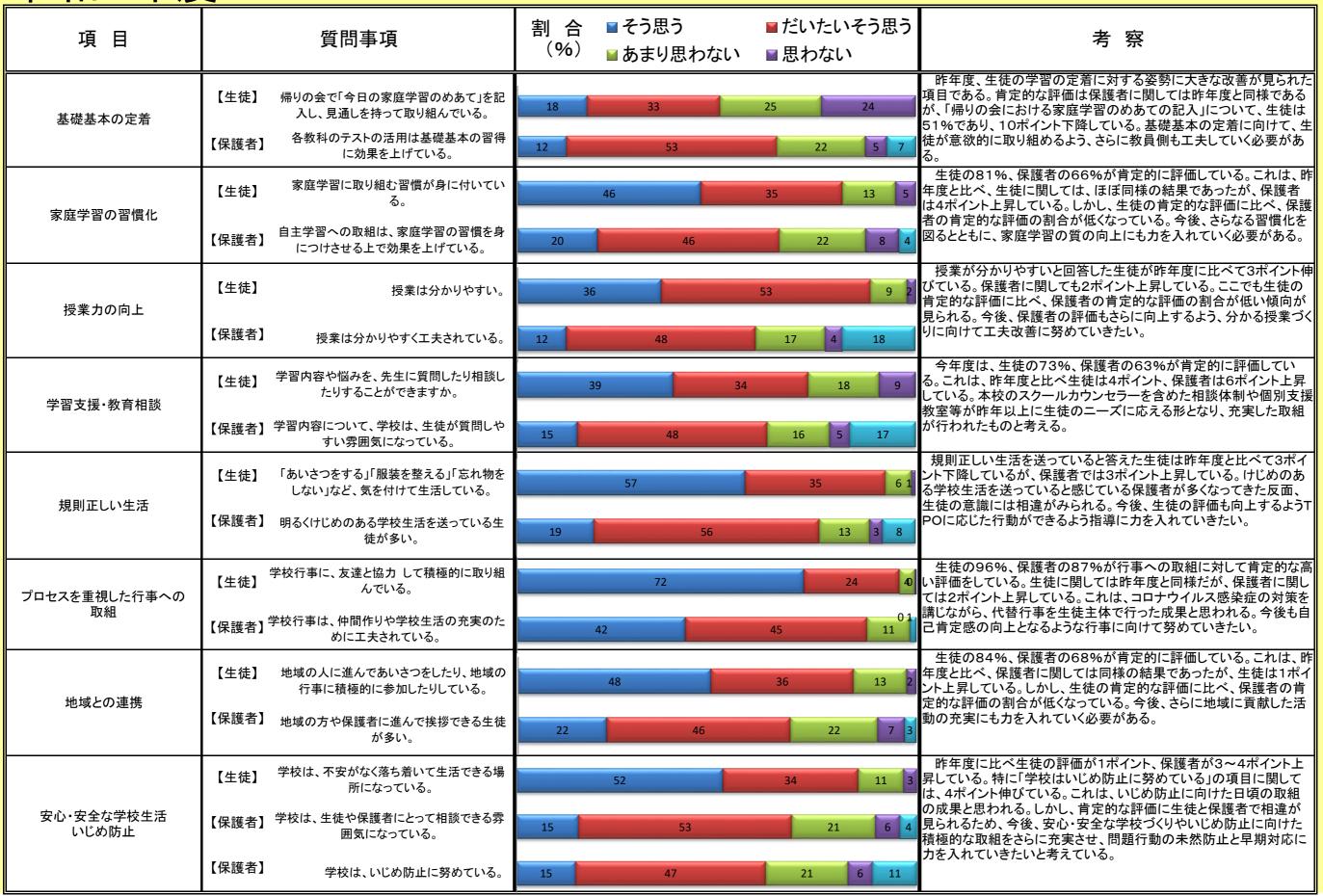
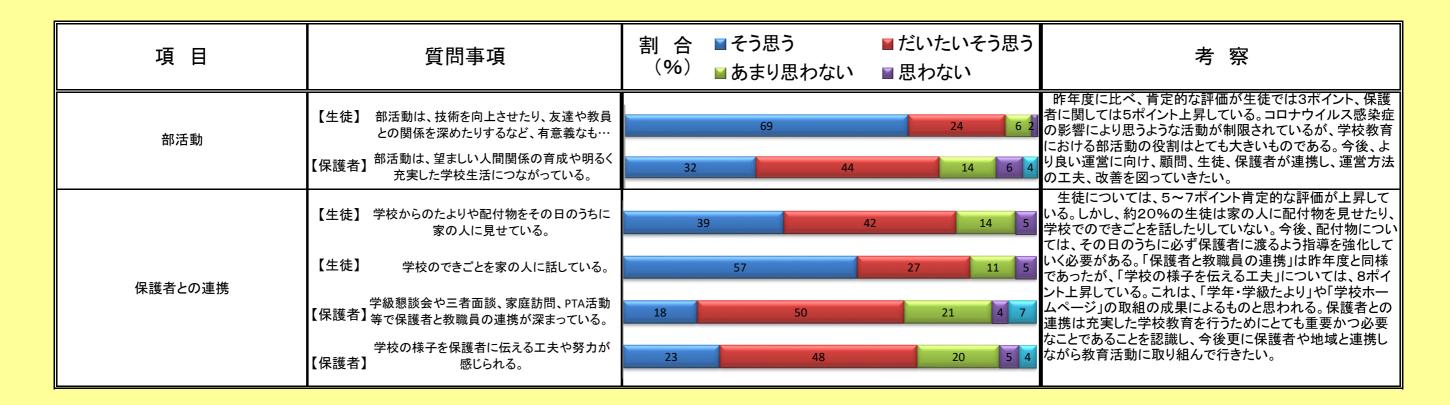
令和2年度





【全体を通しての考察等】

今年度は、昨年度の結果と比べると、各項目において肯定的な回答が上昇していることがうかがえる。昨年度は、生徒と保護者の評価に相違が見られるものの調査項目10項目のうち下降傾向が5項目あったが、今年度は上昇傾向が7項目、横ばい傾向が2項目、下降傾向は1項目であった。今年度は当初よりコロナウイルス感染症の影響で教育活動を制限し、臨時休業の実施や行事の削減等をせざるを得ない状況であった。しかし、生徒たちが、主体的に代替行事の企画・運営を教職員と連携しながら実施することにより、充実した学校生活を送ることができたばかりでなく、自主性や主体性を身につけることにつながったものと考える。本校では、学校生活の改善を図ろうとするSRP(スクールレボリューションプロジェクト)を5年間展開してきた。この取組を継続してきたことが、今回のコロナ禍における生徒主体の活動の成果として現れてきたものと思われる。今後、コロナ禍の学校生活おける「新しい生活様式」を意識し、生徒自身がより良い学校づくりに努めていくようSRPをこれまで以上に充実させることが大切である。また、それらを通して規範意識の向上、道徳教育の充実、人権感覚を高めるとともに基本的な生活習慣の確立を目指していきたい。

学習面では、昨年度より肯定的な評価が低かった「基礎基本の定着」について、県教委のサポートによる学力向上指導員派遣事業での校 内研修を通して、生徒にとって魅力的な授業づくり、分かりやすい授業の展開等の教師の授業改善により基礎学力の定着を図り、今後学力 向上に向け、より一層力を入れていきたい。

最後に、アンケート結果を踏まえ、課題を改善していくためには、教職員のみならず保護者や地域の方からの理解と協力が必要になって くる。そのためにも、「地域とともにある学校づくり」を目指し、教職員が一丸となって尽力していきたい。